

## 質の高い大学教育推進プログラム 実施状況報告書

大 学 等 名	東京外国語大学		
取 組 名 称	グローバル戦略としての日本語 e ラーニング		
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組		
取 組 期 間	平成 20 年度 ～ 平成 22 年度 (3 年間)		
取 組 学 部 等	全学	取組担当者	芝野 耕司
W e b サイト	http://jplang.tufs.ac.jp/account/login		
取 組 の 概 要	本取組では、海外を含む遠隔地やベテランの日本語教員が不足している機関においても利用可能な e ラーニング教材、システム及び指導法を開発し、ICT を利用した国内外への教育機関への日本語教育支援を行い、(1) 日本語 e ラーニングシステム及びコンテンツである JPLANG の拡張、(2) e ラーニングを取り入れた日本語指導の研究、(3) ファカルティ・ディベロップメント及び (4) 海外への普及及びサポート活動を行う。		

### 1. 取組の実施状況等

#### ①取組の実施状況 【1 ページ以内】

本取組は、留学生日本語教育センターと総合情報コラボレーションセンターとを中心とした全学的な体制で実施した。コンテンツ開発には、留日センター日本語教員 20 名が参加し、システム開発には、全学情報系教員 3 名及び総合情報コラボレーションセンター技術要員 2 名が参加し、システム設計を担当するほか、音声収録、ビデオ収録、イラスト作成、プログラム開発などは、外注を予定している。

正規授業での利用は、留日センター国費学部進学留学生 60～70 名/年、3 年間計約 200 名を対象とするが、申請時点で 4,000 名を超える JPLANG 登録ユーザがおり、また、ナポリ国立大学オリエンターレなど、海外の大学向けのクラスも開講している。この取組期間中の新規外部ユーザとしては、3,000 名程度を予定していた。

#### 日本語 e ラーニング教材 JPLANG の拡張

平成 17 年度採択現代 GP「e-日本語—インターネットで広げる日本語の世界」において、教室授業との併用 (blended learning) を前提とした初級・中級レベルの 900 時間、2,112 Web ページ、24,352 音声ファイル、2,596 画像ファイル及び 17 ビデオファイルを含む日本語教育コンテンツの開発、AJAX, Ruby on Rails, Flash を用いパソコン 1 台で LL 機能が実現できる e ラーニングシステムの開発、及び e ラーニングをとりいれた統合型学習モデル構築のための初級段階の指導書の作成を行った。3 年間の結果として、ユーザー登録は、45 か国、4,000 名を超え、海外における日本語教育に貢献していると言える。

本取組では、その実績を踏まえ、日本の大学及び大学院において専門教育を受けるに足る日本語力養成のために、大学院入学用コンテンツの開発及び改良を以下のとおり行う。

##### 1. 上級コンテンツの開発

外国人留学生が、日本の大学で日本語による講義を理解し、専門書を読み、レポートを作成し、演習で発表・ディスカッションする日本語力を身につけられるよう、アカデミック・ジャパニーズに特化した教材が必要である。本学では、中級終了程度の日本語教育から人文系・社会科学系等の専門教育への橋渡し教材として『日本事情テキストバンク』を開発した。この教材の e ラーニング化を進め、日本留学前あるいは大学及び大学院入学前から、アカデミック・ジャパニーズに必要なスキルを身につけられるようにする。

##### 2. 上級レベルの日本語教育支援を可能にする e ラーニングシステムの拡張

発表やディスカッションなど、日本語母語話者を交えた活動を可能にするため、日本語教員単独での運用は難しいテレビ会議システムと同等の機能がパソコンレベルで実現できるインターネット (Web) 会議システムを JPLANG に組み込む。

#### e ラーニングをとりいれた日本語指導の研究

上級コンテンツやインターネット (Web) 会議システムの追加に伴い、初級から上級まで一貫した e ラーニング教材が揃った段階で、アカデミック・ジャパニーズという観点からコンテンツを見直し、初級・中級のコンテンツの改良を行う。また、日本語 e ラーニング教材 JPLANG は、blended learning を前提としているため、教材の提供だけでなく、指導法を開発を伴う。語学教育における e ラーニングの効果的な使用方法について調査、研究を行い、e ラーニングをとりいれた日本語指導のモデルを提案する。

#### ファカルティ・ディベロップメント(FD)

日本語教育における e ラーニング推進のため、研修会等を通じて、日本語教員のコンピュータ利用のスキルアップを図る。また、語学教育に特化した e ラーニングの開発にあたっては、日本語教員と情報工学系教員双方の意思疎通を図る、橋渡し役が必要である。本取組を通じて OJT (On the Job Training) を実施し、次世代の e ラーニング開発を担う人材を養成する。

## ②. 取組の成果 【1 ページ以内】

初級コンテンツの拡張・改良及び中上級コンテンツの拡充によって、教育内容の質的向上を図ることが可能となり、教育効果が高まった。また、登録ユーザも申請時の約 4,000 名から初年度の半年間で約 6100 名、2010 年 1 月には 8,300 名、2011 年 4 月 26 日現在 11,370 名へと増加し、毎月約 200 名の新規ユーザ登録があり、毎日 10,000 件のログが記録され、累積ログ件数は 10,916,426 件である。学内正規授業での利用は、予定通り 3 年間計約 200 名であった。一方、外部ユーザに関しては、前述のように 3,000 名を予定していたが、7,370 名に上った。

日本語能力が十分ではない初級日本語学習者に対し、母国語での日本語学習を可能とした。現在サポートしている言語は、英語、中国語(簡体)、中国語(繁体)、イタリア語、タイ語、ベトナム語、ドイツ語、インドネシア語、マレー語、アラビア語、ポーランド語及びセルビア語の 12 言語である。

日本語教育指導と FD、教員養成のために、初級日本語及び中級日本語教育に関する指導書を開発し、2010 年に初級日本語指導書を「直接法で教える日本語」として東京外国語大学出版会から出版した。

普及活動及び実態調査が出来ていなかったアフリカ及び中東地域に関して、モロッコ、エジプト、ヨルダン及びトルコでの普及活動を実施し、これら地域からの利用が大幅に増加した。

e ラーニングシステムにインターネット (Web) 会議システムを取り入れるためのパイロットシステムの開発を行った。このパイロットシステムの開発によって、これまで開発したインターネット LL 機能に加え、従来の LL では実現できていなかった会話実習機能の仕様を確定した。この機能追加によって、言語教育用 e ラーニングシステムで必要とされる全技能のトレーニングが可能となった。また、日本国外からの利用者にとっては、インターネットを利用した遠隔授業によって、日本語の母語話者との会話機会を大幅に拡充することができた。これらを通じて、日本留学希望者が留学前に大学での教育を受けるために必要とする日本語能力向上にも資することとなった。

タイのタマサート大学との Web 会議を利用した遠隔言語授業の実施では、タマサート大学の日本語学習者と本学のタイ語学習者との交流授業を実施した。この Web 会議での交流授業を定期的実施することによって、双方の学習者の学習意欲を大きく高めることができることが期待できる。

また、取組成果に関しては、EuroCall 及びヨーロッパ日本語教育シンポジウムで毎年研究成果の発表を行うとともに、本取組でシンポジウムを実施した。2011 年 3 月には、JPLANG 利用に関して、イタリア、スロバキア、及びタイでの利用を含めた国際シンポジウムでは、学内 24 名、学外 52 名の計 76 名の参加者があり、毎年実施しているこのシンポジウムによって、JPLANG のプロジェクト成果の普及及び社会還元役に役立っている。

### ③. 評価及び改善・充実への取組 【1ページ以内】

内部正規授業での評価に関しては、本取組で開発した JPLANG のアンケートシステムを利用し、全正規生に対して、年 2 回のアンケートを実施し、このアンケート結果を取組及びシステム改善に活かしてきた。

学生による評価以外の評価及び改善・充実への取組としては、外部評価委員会で細部にわたる取組に関して、具体的な評価及びフィードバックをもらい、これを改善充実に活かした。

2 年度、3 年度目を実施した国際シンポジウムでは、シンポジウム参加者のアンケートを実施し、これをフィードバックした。

また、本取組で開発した e ラーニングシステムである JPLANG システムは、2011 年 4 月段階で 11,370 名の利用者登録及び 10,916,426 件のログがある。これらのシステムから得られるデータを評価及び改善に活かしていくためには、Amazon, 楽天などで利用されているデータマイニング, テキストマイニングとは別のデータ解析が必要であり、この研究に関しては、別途、芝野を研究代表者とする科学研究費補助金での基盤研究 A(2010 年度から 2012 年度)でラーニングマイニングの研究として実施している。

#### ④. 財政支援期間終了後の取組 【1ページ以内】

本取組は、前述のように留学生日本語教育センターと総合情報コラボレーションセンターとの共同研究開発を基盤とする全学的な体制で実施してきており、財政支援機関終了後も、この体制での取組を継続する。

また、取組期間終了後においては、本取組のFD（OJT）で養成した、次世代のeラーニング開発を担う人材を中心として、全学的な支援体制の下に維持・発展させていく予定である。

## 2. 取組の全体像 【1ページ以内】

### JPLANG の開発

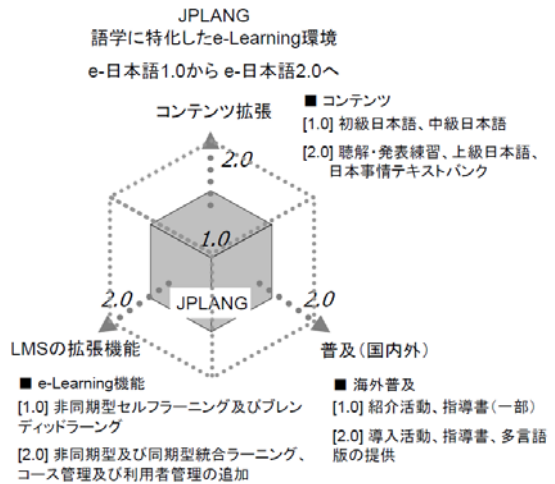
- 2003年7月より、東京外国語大学・留学生日本語教育センター（以下「本センター」と略す）と情報処理センター(当時)は、日本語 e ラーニング教材の共同開発に着手し、留学生日本語教育センターが創立以来40年にわたって蓄積してきた日本語教材を、最先端の情報通信技術に載せて世界に向けて発信できるようにしました。
- 日本語 e ラーニング教材 JPLANG(ジェイ・ピー・ラング)は、Blackboard, WebCT, MOODLE といった既存のシステムは使用せず、Ajax, Ruby on Rails, Flash Media Server を使用して語学教育に特化した独自のシステムを構築しました。

### JPLANG のユーザ登録数

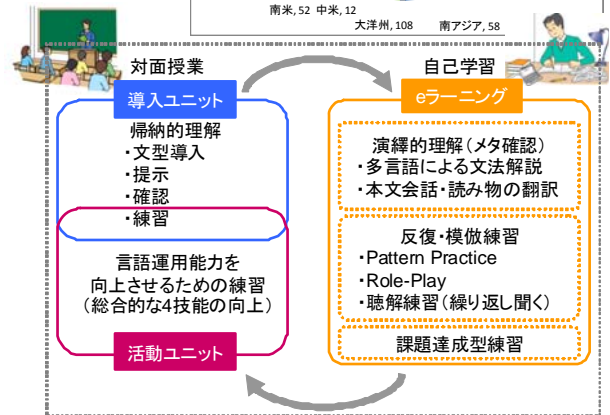
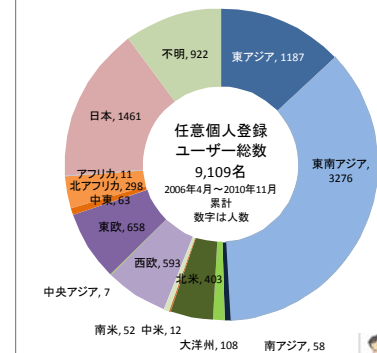
- JPLANG のアクセスログ件数は、2011年2月8日(火)日本時間18時35分4秒に10,000,000件を突破しました。2011年2月14日までの累計は10,060,297件です。
- JPLANG のユーザー登録者数は、個人登録とクラス登録者の両者を併せて2006年4月17日から2011年2月14日までの累計で10,929名です。世界84の国と地域からアクセスがあります。

### JPLANG 教材コンテンツの特徴

- JPLANG は、右図のような「統合型学習モデル」のもと、教室授業と e ラーニングを組み合わせた blended learning による効果的な日本語学習をめざしています。
- 効果的な指導ができるよう、教師用指導書も開発しています。
- JPLANG は、本センターで開発した印刷教材『初級日本語』『中級日本語』『日本事情テキストバンク』を e ラーニング化したもので、各種コンテンツが用意された Web 版総合日本語教材です。



JPLANG任意個人登録ユーザーの登録地点



日本語能力試験

	←N5・N4→	←N3・N2→	←N1	合計
既出版物ページ数	1,754	764	116	2,634 頁
学習文型数	324	299	50	673 文型
学習語彙数	1,898	2,330	1,510	5,738 語
学習漢字数	600	616	194	1,410 字
ウェブページ数	1,692	420		2,112 ページ
音声ファイル数	20,500	3,852		24,352 ファイル
画像ファイル数	2,454	142		2,596 枚
ビデオクリップ数		17		17 本
コンテンツの種類	※語彙 ※文法 ドリル 会話練習 ※本文会話 聴解 読解 (追加予定) 口頭表現 基礎科学	語彙 文型 読解 補助資料 表現練習 会話練習 (追加予定) 聴解 口頭表現	『日本事情テキストバンク』を使用	